


令和6年度 粟ノ保小学校だより

令和6年9月10日 NO.11



# ひまわり

羽咋市立粟ノ保小学校  
校長 田中 利弘

スローガン【すべては 子どもたちの 輝く未来のために】

◇全国・石川県学力調査結果のお知らせ◇

教科別正答率の県平均等との比較 すべての学年・教科で県平均5P以上上回る

6年	全国学力・学習状況調査		石川県基礎学力調査			4年	石川県基礎学力調査	
	国語	算数	社会	理科	英語		国語	算数
	↑	↑	↑	↑	↑		↑	↑

**調査の目的**  
 ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

7月下旬、新聞等で全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校の結果を上記に示しました。結果を受けて、学力調査の趣旨に沿って授業改善や基礎学力向上に努めていきます。4年生・6年生共に、県平均を上回る結果となりました。継続して学力の向上に努めます。下表は本調査結果から見られた粟ノ保っ子の課題です。

現状	課題
<b>国語</b> ◆題意や条件を正しくとらえ、必要な資料や文章を読み取る能力が不足	*題意や条件を正確につかむ力
<b>算数</b> ◆記述問題で、式だけを書き、主語が書いてなかったり、説明が不足	*条件に沿って適切に表現する力
<b>理科</b> ◆理科用語を正しく使えていない	*資料から情報を読み取る力
<b>社会</b> ◆資料から、課題や取組の読み取りが不足	*基礎基本的な用語の理解
<b>英語</b> ◆音声と文字が一致していない	

- 改善策として、
- ① 授業では上記の課題を受け、題意や条件を把握して根拠を明確にしながら筋道を立て表現できる子をめざします。⇒条件作文等で条件に合わせて各時間の設定をする。
  - ② 学力は、「題意をとらえ、条件に合わせて必要な情報や用語を適切に使い、論理的に説明する能力」です。日常の積み重ねです。⇒授業中の対話量を増やしていく。

学力は、家庭学習をすることで定着できます。タブドリ、スマドリのタブレット端末を活用し、基礎学力を身につけていく。家庭学習時間を確保する。どの教科にあっても、「自分の考えを持つ」ことは必須です。「どうしてそう考えたの?」「だって、・・・」「どうしてかというのと、...」と言える粟ノ保っ子を育てていきます。ご家庭でも、「どうしてそう思うの? どうしてそう考えたの?」を子ども達に話させる習慣を身につけさせたいですね。

裏面あります

## ◇ちょっと親学◇

～「学校ものがたり」もの・ことの慣れを語る 日向野一生 著 より～

二十数年前、担任をしていた頃、子どもたちから「どうして勉強しなければならないの？」とよく質問されたことがありました。その時、次のような内容のことを返答した記憶があります。教育とは、不幸せにならないための最低限の知恵を授けること。

よって生業の業を授ける「授業」となる。俗に言えば、人との付き合いのために「国語」があり、買い物でお釣りを間違えないために「算数」があり、新たなる便利なものづくりのために「理科」があり、同じ過ちを犯さないために「社会」があり、笑顔のために「音楽」がある。先人の幸せになるための知恵が凝縮されている。

子どもたちが生きるこれからの世の中は、いったいどんな未来になっているのでしょうか。予測困難なことが待ち受けています。そんな未来を生き抜くには、どんな力が必要なのでしょうか？

「あれをきなさい」「これをきなさい」と親が何においても口を出し、子どもに具体的な指示ばかりしていると、主体性が育ちません。すると、やる気がなくなってしまう、自分で考える習慣が身につかない、言われたことしかやらないなど、悪循環に陥ってしまいますね。

つまり、自分で考え、選択して物事を成し遂げてきたという自信がないので、周囲に合わせて（空気を読んで）自分の人生を選んでしまう、何かをやり切ることができず、何事も中途半端に終わってしまうこも起きるのではないのでしょうか。

昨年の学校便り9月19日号に、「自主的と主体的の違い」について触れました。字がよく似ていますが、意味は違います。決定的な違いは「やるべきことを決めるのが自分なのか他者なのか。」です。再度紹介します

例えば、教室の掃除をします。教室は、先生がいつもきれいにしましょうと言います。

「先生に注意される前に掃除をしよう」と考え行動するのは「自主的」な行動です。

一方、「教室をきれいにしておけば、みんなが気持ちよく過ごせるし勉強もできる」。だから掃除をしておこうと考えるのは「主体的」な行動になります。

違いは明らかですね。掃除をしようと決めたのは、先生ですか自分ですか。その差です。自分で考えて、行動するのが「主体的」なんです。

私たち大人もこれからの子ども達にとっても、「やるべきこと」や「やらなければいけないこと」を他人から言われてもしないは問題ですが、まずは、「言われてからする」→「言われる前にする」といった自主的な行動レベルを上げていきたいですね。

そして、「自分で考えて動く」主体的な行動レベルができる子をめざしたいですね。

最後に、自主的な行動が取れる子だけが、主体的な行動ができるのです。

